㊿シネマドア鳥取合同会社（鳥取市）

地域のミライをみんなでつくろう！
ミラ・クル・とっとり運動

映画でゆるくつながる場所目指す

鳥取市元町に開設したミニシアターで、映画を通じた新しいコミュニケーションの場を提供。映画ファンが集まる新たな街中の拠点となっている。

「映画を見た後、誰かと感想を語り合いたい」。そんな願いからシアター入り口にはカフェスペースを設け、お茶やコーヒーを片手に映画談義を楽しめる環境を整えた。上映作品も「見た後に語り合いたくなる映画」を基準に選考している。

シアターを運営するシネマドア鳥取合同会社を率いるのは、２０２４年12月に同市へ移住したフリーコピーライターの金塚敬子代表。移住者らでつくる「鳥取ふるさとＵＩ（友愛）会」の交流会で市内に映画館が１館しかないことに触れ、「ミニシアターをつくりたい」と語ったところ、話題となった。

共感した同会員ら3人と共に25年7月、合同会社を設立。1級建築士が店舗設計、工務店勤務経験者が内装、元銀行員が経理を担うなど、それぞれの経験や技能を生かして開館にこぎ着けた。寄付や鳥取県公民連携推進事業補助金を活用して事業を実施しており、現在は4人の役員と、ボランティア10人以上のサポートを得て運営している。



カフェスペースで談笑する金塚さん（左から2人目）やシネマドアのスタッフら

シアターは20席で１３５インチのスクリーンを設置。若い世代の利用や、新規来館者の獲得につなげるため「Ｕ25応援割」と題して25歳以下の鑑賞料金を５００円割り引くほか、9月からは仕事や学校帰りでも利用しやすいイブニング上映も始めた。

全国のミニシアターには公民館のような寄り合い所となっている場所もあると話す金塚さん。「同じ映画を見たという、ゆるい連帯感でつながる場所を目指したい」と思いを込めた。

（C）新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます